
転生の糸使い

1億36度

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
転生の系使い

【Nコード】
N6638Y

【作者名】
1億36度

【あらすじ】
死んで転生のありがちな小説です、よろしければ読んでください。

まさかの転生（前書き）

良ければ読んでください。あまり厳しい感想は出来れば控えてください。

まさかの転生

俺は普通の学生だったそして二次小説にのめり込み「転生したいな」が俺の口癖となっていた、そんなある日俺は町を歩いていたふと胸が痛いと思ったら、目の前が真っ暗になった、ふと気がつくと真っ白な空間に居た驚いてあたりを見回すと若いイケメンが紅茶を啜っていた。

「おや、起き

たのかい。」

青年が聞いてくるからしゃべろうとすると声がでなかった、どうしたことかと驚いていると

「ああ、今の君

は魂だからしゃべれないんだ」

魂？と

いう事は俺死んだのか？……もしかして転生できるのか俺？

「ああ、そつだよ察しが良くて助かるよ、ああ、そつそつチートも上げよう」

そつかじゃあ「ああ、そつそつ道具とかにしてくれよ楽だ

からね。」

それならまず俺の身体に全て遠き理想郷を組み込んでくれ、それとヒエヒエの実と無限に糸を出す道具をくれああ糸は自由に操れるようにそれと絶対切れないようにしてくれ。

「

ふむ、それだけかい？」

ああ、それだけだ。

「それなら転生してきてくれ、ああ、そうそう君気に入ったから何個も世界を回れるようにしてあげよう」

ああ、

ありがとよ神様それじゃまた今度

そして神様がゆびを振ると俺の意識はブラックアウトしていった。

主人公設定

前世では夢もなかった
だ生きていただけだった
ので後悔も無かった
が急性心不全で死んだ
事により神に転生させてもらえることになった
ため人生を楽しむを
モットーに生きることにした。

一般人スツペク

主人公スツペクF a t e 風

筋力 D

筋力 B +

B

耐久 D

耐久

敏捷 B

敏捷 C

幸運 C

幸運 C

魔力 B

魔力 C

気 B

気 C

後名前リー・シンクー

転生前名前NOデータ 転生

ウォーカーただし身長は175cmある。

外見 まんまアレン・

スキル

身体 A

氷の

ありとあらゆる物理攻撃が効かない
がカナズチになるという呪いがかかっているがそれも全て遠き理想
郷の能力でかき消されている、なおアオキジの技も使える。

魅力 C

異性にちよつと気

になる人などと思われるレベルである。

精神の統

一 A

いかなる状況でも精神が乱れる事はな
いと言う効果をもつ神のプレゼント

宝具

アリアドネーの糸玉 A

見た目は13個の空
色の水晶玉、13個でひとつの為ひとつ壊れてもすぐに元にもどる
しかし全部壊されると元に戻るのに丸一日かかる、能力は絶対切れ
ない糸を無限に出せ自由自在に操れる、なお0、0001秒に10
0mの糸を100万本出せる。

全

て遠き理想郷〔偽〕A

不老不死の効果を持ち呪いを撥
ね除け傷をいやす効果を持っているが神が作った偽物であるため真

名解放が出来ない。

神が作りし黒き弓 E X

真名を開放し

なければしよう出来ないさらに単発で一日に一回限りの使用となることが真名解放すると絶対突破の概念を持つバスケットボール程の大きさの黒い球体を自分の手前に呼び出しそれを殴る事によって放つ事が出来るその威力は絶大で太陽がダイヤモンドの塊でも突き抜ける。射程は500m程である。「神が全て遠き理想郷の真名解放が出来ぬかわりに用意した武器である」

まさかの転生（後書き）

感想お待ちしています。

ここは何処の世界だ？

ああ、光が見えてきたそう思いながら目を開けると目の前にはレンガや木でできた町で俺の目の前には知らないおっさんがいるそのおっさんが口を開いたと思ったら

「ガキ、てめ

えは俺に買われて少年奴隷剣闘士になるんだ。」

と言った少年奴隷剣闘士？なんか聞いたことがあるな、どっかのキヤラがそんな感じだったようなそんなことを考えていると

「着いたぞここがてめえのねぐらだ中の奴と仲良くしろよてめえのパートナーになるんだからな。」

パートナー？どんな人なのだろうか中に入ってみると褐色の肌をした少年が話しかけてきて

「よお、俺はジャック・ラカンて言うんだお前が俺のパートナーだろよろしくな。」

その日、ここネギまの世界かーという俺の魂の叫びがあがった。

それからはジャックと一緒にいろんな敵と戦ったがジャックが何回も死にかけたため棄権してジャックの看病をしたりしているとジャックが段々強くなってゆきそ

れから5年後には原作同様のチートの塊が出来上がっていた、いやーどどんムキムキになってそれに正比例するように背がのびていくからだんだんとなれてきてこれが普通だとか勘違いしてたんだよな、今思うと頭がどうかしてたんだな。

まあそれは置いて、神がくれたものをチェックしてるとき、とんでもない物が入ってたんだよ、なんなんだよ「神が作りし黒き弓」で思ってると使用方法と威力が頭ん中にはいつてきたんだよ、まあ真名解放しないと使えないらしいから使わないけどな。

あと俺魔

法使えないんだよだから感卦法と戦いの練習ばかりしてたんだよ、そしたらいつの間にか拳と蹴りの速度が半端ない物になってんだよ、拳圧とか飛ばせるよゝみたいなの。

ああそうそう今傭兵してるんだけどさ俺たちが解放奴隷になった時って二人ともに異名が付いてたんだよな、ラカンのは「死なない男」に「不死身バカ」とかついてただけどさ俺の異名って「氷の王」「悪夢の聖職者」なんてついてるんだよな……感想を言うとなんだこの厨二病おかしいだろ後者はまあいい、だって今のおれの服装が黒の教団の十字架が赤く染まったの来てるからな、気持ちわかるよ、でも前者がおかしいだろなんだ氷の王って確かに身体が氷で出来るけどさこれ聞いた時俺首吊ろうとしたからなラカンに止められたが、まあそんなこんながあつて今はあいつが持つてくる依頼を待つてるんだけどな。

「おい、シンク 依頼が入ったきたぜ、」

とやらだ。

おお、噂をすればなん

だ？」

「で、どんな依頼

き翼をぶっ倒してくれだそうだ」

「おお、紅

作イベントかよ、まあいいけどな。

原

「で、用意は？」

「おお、弱点を聞いて用意してきたぜ二人分」

「なんで二人分何だ？」

「ああ、めんどくさかったからだ」

こんな事を背後にドーンと言う効果音でも付きそんな態度でいうんだからな。

「はあ〜」

「なんだよ、俺たち
無敵コンビが居たら敵なしだからいいじゃねえかH A H A H A H A
H A H A」

ああやつぱ

こいつ馬鹿だ、まあいいや

「ん

じゃ、さっさと行こうか。」

「おうよ。」

そして時飛んで紅き翼の奴らが見下ろせる崖の上

おお、鍋

くつとるよ、うまそうだなゝなんて思ってたらいきなりラカンが剣
を投げやがった、あゝあ鍋吹き飛んじまったよ、勿体ねー。

「お食事中失礼ッ俺たちは無敵
の傭兵ジャック・ラカンと」

お前俺に名乗れという
のかよ！目でちらちらこつちみんな！しゃー無い名乗るか。

「リー・シンク

ーといういつちょ喧嘩しようや」

紅き翼（詠春）Side

なんだこいつらは、いきなり出てきて私たちの鍋を粗末にしおって食べ物も粗末にするやつは

「斬る」

そう言つて男が投げてきた剣を斬り飛ばしながらジャック・ラカンと名乗った方に斬りかかる

「おお、あんた本当につええなちよつとまたねーか」

「やるのなら真面目にしろー!!」

「そうだな、なら情報その1生真面目な剣士はお色気に弱い」

そう言いながら男はカプセルを取り出すそしてこっちに投げてきた、何だこれかと思つていると中から精霊種の女性が出てきた、つい目を瞑つて

「何のこれしき、心頭滅却すれば火もすずs ゴス」

という音とともに意識がブラックアウトしていった。

S i d e アウト

ジャック S i d e

「ホイッ いっちょ上がり」

と俺が言っていると雷が落ちてきたから避けた、そしたら赤毛の奴が出てきて

「こいつは俺の相手だ邪魔すんじゃねえぞ」

といいやがった、ハハいいね、やるうじゃねえかっとその前に

「シンク 俺はこいつとやりあつから後頼んだぜ」

よし、こ

れで思い残すことはねえな

「

よっしゃ赤毛ここから離れようじゃねえか」

赤毛は二つ返事で

「おう。」

と返したきた、そんじゃあ行くか。

S i d e アウト

ああ、走ってきやがった、

「ああ、紅き翼の皆

さん俺が相手するから我こそはって人は」

そこまでい

って言うのを止めた、なんでってもう立ってんだよ、アル・ビレオ
イマとゼクトしかも、

もう俺の頭上に黒い球体が発生してるし！ちくしょう

「気が早いな、おい！」

そう言い避けるともうそこにゼクトがいて

「燃える天空」

おい、それ広範囲殲滅魔法だろう
がと心の中で突っ込みながら能力を使って

「氷河時代（アイスエイ
ジ）」

全部凍らせる！

！ よしなんとかなったと思ったら頭の上にまた黒い球体が

以下無限ループ

はあはあ、疲れるこいつらの魔力と
かどうなっただよと思いながらラカンの方向をみると倒れていた。

「やられとるし！！ああもう

ここはひかせてもらうぞ」

と言いつつアリアド
ネーの糸玉を取り出し全員を縛り走りながら感卦法をかけラカンの
方に走っていく

「じゃあな赤

毛のあんちゃん」

「そい

つ起きたら挑戦待ってるって伝えといてくれよ」

なにを約束したんだこいつ？

「ああ、わかったよ」

返事をして俺はラカンをつれて隠れ家に変える。

#3話

翌日

昨日ラカンに伝言を伝えてから俺は寝た。そして朝起きたらラカンが「挑戦に入ってくる」と言い出ってたので今は暇である。

「バカがいなくなると結構暇だな、そうだと修行でもするか」

と言っても格闘は問題ないので能力の練習をすることにした。

「まずヒエヒエの実って攻撃力はあまりないけど氷だから物質が出せるんだよね……じゃあ身体から氷を出すって出来るのか？」

とりあえずやってみることにした。

結果出来た全身のいたるところから氷が出せたが、自分が氷の重さに耐えれず50メートルしかのばせなかった、ただ悪魔の氷なので鉄位の強度はあるみたいだった。

「ふむ、じゃあ次は糸で物を作って氷で武装させれるかだな。」

こちらもとりあえずや

つてみた、こちらは問題がなかった。

この二つが出来たことで戦略が広がったそして糸などの精度を上げる事を修行内容にした。

夕方

ジャックから手紙が来て。

「しばら

く、あっちにいてあいつらに挑戦しまくるからきにすんな」

と手

紙に書いていたので

「まあ、あいつの事だし大丈夫だろ」

そして俺は寝ることにした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6638y/>

転生の糸使い

2011年11月26日19時48分発行